

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	市営下原住宅	階数	地下0階地上8階
建設地	愛知県春日井市東山町字平橋2265番4	構造	RC造
用途地域	都市計画区域内,市街化調整区域	平均居住人員	119 人
気候区分	6地域	年間使用時間	8,760 時間/年
建物用途	集合住宅	評価の段階	実施設計段階評価
竣工時期	2023年3月 予定	評価の実施日	2021年3月9日
敷地面積	8,251 m ²	作成者	玉井 秀一
建築面積	1,192 m ²	確認日	2021年3月9日
延床面積	6,791 m ²	確認者	玉井 秀一



2-1 建築物の環境効率 (BEEランク&チャート)

BEE = 1.7

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

標準計算
 ①参照値 100%
 ②建築物の取組み 60%
 ③上記+②以外の 60%
 ④上記+ 60%

2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q 環境品質

Q のスコア = 3.4

Q1 室内環境

Q1のスコア = 3.7

Q2 サービス性能

Q2のスコア = 3.1

Q3 室外環境 (敷地内)

Q3のスコア = 3.4

LR 環境負荷低減性

LR のスコア = 3.5

LR1 エネルギー

LR1のスコア = 4.0

LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 2.8

LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 3.7

3 重点項目

<h4>①地球温暖化への配慮</h4> <p style="font-size: 2em; color: green;">4.6</p>	<h4>③敷地内の緑化</h4> <p style="font-size: 2em; color: green;">3.0</p> <p>外構緑化指数(外構緑化面積/外構面積)</p> <p style="text-align: center; font-size: 1.5em;">21.7 %</p> <p>建物緑化指数(建物緑化面積/建築面積)</p> <p style="text-align: center; font-size: 1.5em;">0.0 %</p>
<h4>②資源の有効活用</h4> <p style="font-size: 2em; color: green;">2.8</p>	<h4>④地域材の活用</h4> <p style="font-size: 2em; color: green;">1.0</p> <p><外装材に使用した地域性のある材料></p> <p>なし</p> <p><建物の構造材・内装材、外構に使用した地域性のある素材></p> <p>なし</p>

各重点項目は、以下の評価項目の得点により算出されています。

①地球温暖化への配慮
 LR-3 1 地球温暖化への配慮

②資源の有効活用
 Q-2 2 耐用性・信頼性、Q-2 3 対応性・更新性
 LR-2 2 非再生性資源の使用量削減

③敷地内の緑化
 Q-3 1 生物環境の保全と創出

外構緑化指数 = $\frac{\text{中高木の樹冠の水平投影面積} + \text{低木・地被等の植栽面積}}{\text{敷地面積から建物面積(建築面積及び附属物面積)を除いた}} \times 100$

建物緑化指数 = $\frac{\text{屋上緑化面積} + \text{壁面緑化面積}}{\text{建物によって占有された部分の水平投影面積(法定面積)}} \times 100$

スコアシート		実施設計段階		環境配慮設計の概要記入欄							全体
配慮項目	独自基準 重点項目	建物全体・共用部分	建物全体・共用部分	建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		重み係数	全体		
				評価点	評価点	評価点	評価点				
Q 建築物の環境品質											
Q1 室内環境											
1 音環境											
1.1 室内騒音レベル											
1.2 遮音											
1 開口部遮音性能											
2 界壁遮音性能											
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)											
4 界床遮音性能(重量衝撃源)											
1.3 吸音											
2 温熱環境											
2.1 室温制御											
1 室温											
2 外皮性能											
3 ゾーン別制御性											
2.2 湿度制御											
2.3 空調方式											
3 光・視環境											
3.1 昼光利用											
1 昼光率											
2 方位別開口											
3 昼光利用設備											
3.2 グレア対策											
1 昼光制御											
3.3 照度											
3.4 照明制御											
4 空気質環境											
4.1 発生源対策											
1 化学汚染物質											
4.2 換気											
1 換気量											
2 自然換気性能											
3 取り入れ外気への配慮											
4.3 運用管理											
1 CO ₂ の監視											
2 喫煙の制御											
Q2 サービス性能											
1 機能性											
1.1 機能性・使いやすさ											
1 広さ・収納性											
2 高度情報通信設備対応											
3 バリアフリー計画											
1.2 心理性・快適性											
1 広さ感・景観 (天井高)											
2 リフレッシュスペース											
3 内装計画											
1.3 維持管理											
1 維持管理に配慮した設計											
2 維持管理用機能の確保											
2 耐用性・信頼性											
2.1 耐震・免震・制震・制振											
1 耐震性(建物のこわれにくさ)											
2 免震・制震・制振性能											
2.2 部品・部材の耐用年数											
1 躯体材料の耐用年数											
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔											
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔											
4 空調換気ダクトの更新必要間隔											
5 空調・給排水配管の更新必要間隔											
6 主要設備機器の更新必要間隔											
2.4 信頼性											
1 空調・換気設備											
2 給排水・衛生設備											
3 電気設備											
4 機械・配管支持方法											
5 通信・情報設備											

3 対応性・更新性				0.2	3.0	0.29	3.2	3.2	1.00	3.1
3.1 空間のゆとり				-	-	-	3.4	3.4	0.50	
1	階高のゆとり		階高3.0m以上	-	-	-		5.0	0.60	
2	空間の形状・自由さ			3.0	-	-		1.0	0.40	
3.2 荷重のゆとり				3.0	-	-		3.0	0.50	
3.3 設備の更新性				1.0	3.0	1.00		-	-	
1	空調配管の更新性	②			3.0	0.17		-	-	
2	給排水管の更新性			3.0	3.0	0.17		-	-	
3	電気配線の更新性			3.0	3.0	0.11		-	-	
4	通信配線の更新性			3.0	3.0	0.11		-	-	
5	設備機器の更新性			3.0	3.0	0.22		-	-	
6	バックアップスペースの確保			3.0	3.0	0.22		-	-	
Q3 室外環境(敷地内)					-	0.30		-	-	3.4
1 生物環境の保全と創出			独自③		3.0	0.30		-	-	3.0
2 まちなみ・景観への配慮			独自④	周囲のまちなみと調和しており、良好な景観を形成している		4.0	0.40		-	4.0
3 地域性・アメニティへの配慮					0.3	3.0	0.30		-	3.0
3.1 地域性への配慮、快適性の向上			独自④			3.0	0.50		-	
3.2 敷地内温熱環境の向上						3.0	0.50		-	
LR 建築物の環境負荷低減性						-			-	3.5
LR1 エネルギー						-	0.40		-	4.0
1 建物外皮の熱負荷抑制				断熱等性能等級における等級4相当	3.0	4.0	0.33		-	4.0
2 自然エネルギー利用					3.0	3.0	0.17		-	3.0
3 設備システムの高効率化				BEI=0.83	3.0	5.0	0.33		-	5.0
4 効率的運用					0.1	3.0	0.17		-	3.0
集合住宅以外の評価						-			-	
4.1	モニタリング				3.0	3.0			-	
4.2	運用管理体制				3.0	-			-	
集合住宅の評価					1.0	3.0	1.00		-	
4.1	モニタリング					3.0	0.50		-	
4.2	運用管理体制					3.0	0.50		-	
LR2 資源・マテリアル						-	0.30		-	2.8
1 水資源保護					0.1	2.2	0.15		-	2.2
1.1 節水					3.0	1.0	0.40		-	
1.2 雨水利用・雑排水等の利用					0.6	3.0	0.60		-	
1	雨水利用システム導入の有無				3.0	3.0	1.00		-	
2	雑排水等利用システム導入の有無				3.0	3.0			-	
2 非再生性資源の使用量削減					0.6	2.7	0.63		-	2.7
2.1 材料使用量の削減						2.0	0.07		-	
2.2 既存建築躯体等の継続使用						3.0	0.24		-	
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用			②	-		3.0	0.20		-	
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用			独自	-		3.0	1.0	0.20		
2.5 持続可能な森林から産出された木材						3.0	2.0	0.05		
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み			独自	LGS+PBで容易に分別が可能である		3.0	4.0	0.24		
3 汚染物質含有材料の使用回避					0.2	3.6	0.22		-	3.6
3.1 有害物質を含まない材料の使用					3.0	3.0	0.32		-	
3.2 フロン・ハロンの回避					0.6	4.0	0.68		-	
1	消火剤					-			-	
2	発泡剤(断熱材等)					5.0	0.50		-	
3	冷媒					3.0	0.50		-	
LR3 敷地外環境						-	0.30		-	3.7
1 地球温暖化への配慮			①	ライフサイクルCO2排出率60%		4.6	0.33		-	4.6
2 地域環境への配慮					0.3	3.5	0.33		-	3.5
2.1 大気汚染防止						3.0	0.25		-	
2.2 温熱環境悪化の改善				見付面積比が46.2%、隣棟間隔指標が2.91		4.0	0.50		-	
2.3 地域インフラへの負荷抑制					0.2	3.2	0.25		-	
1	雨水排水負荷低減	独自				3.0	0.25		-	
2	汚水処理負荷抑制					3.0	0.25		-	
3	交通負荷抑制	独自	十分な数の駐車場・駐輪場があり、介護車専用の駐車スペースもある			5.0	0.25		-	
4	廃棄物処理負荷抑制					2.0	0.25		-	
3 周辺環境への配慮					0.3	3.0	0.33		-	3.0
3.1 騒音・振動・悪臭の防止					0.4	3.0	0.40		-	
1	騒音	独自				3.0	1.00		-	
2	振動	独自				-			-	
3	悪臭					-			-	
3.2 風害、砂塵、日照障害の抑制					0.4	3.0	0.40		-	
1	風害の抑制					3.0	0.70		-	
2	砂塵の抑制					-			-	
3	日照障害の抑制					3.0	0.30		-	
3.3 光害の抑制					0.2	3.0	0.20		-	
1	屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策					3.0	0.70		-	
2	屋光の建物外壁による反射光(グレア)への対策					3.0	0.30		-	

重点項目(配慮項目)		評価点	全体に対する重み係数	重点項目スコア
① 地球温暖化対策				4.6
LR3-1	地球温暖化への配慮	4.6	0.10	
② 資源の有効活用				2.8
Q2-2	耐震性・信頼性	3.1	0.09	
Q2-3	対応性・更新性	3.0	0.09	
LR2-2	非再生性資源の使用量削減	2.7	0.19	
③ 敷地内の緑化				3.0
Q3-1	生物環境の保全と創出	3.0	0.09	外構緑化:21.7%/建物緑化:0%
④ 地域材の活用		(評価ポイント)		1.0
Q3-2 4)	地域性のある素材による良好な景観形成	0.0	-	なし
Q3-3.1 I 2)	地域性のある材料の使用	0.0	-	なし

■重点項目スコア算出式

各重点項目スコアは、以下の方法により算出されています。

①地球温暖化への配慮、③敷地内緑化

重点項目スコア=各配慮項目の評価点

②資源の有効活用 (評価点×全体に対する重み)の総和

重点項目スコア= 重みの総和

④地域材の活用

重点項目スコア=評価ポイントの合計+1

■ 環境設計の配慮事項

■ 建物名称 市営下原住宅

計画上の配慮事項	
総合	断熱等性能等級における等級4相当であり、建物外皮の熱負荷抑制に努めている。階高は3.0m、各住戸の天井高は2.5m以上と圧迫感のない設計となっている。
Q1 室内環境	F☆☆☆☆をほぼ全面的に使用している。
Q2 サービス性能	外壁や内装仕上げは補修必要間隔が長いものを使用している。階高は全ての階で3.0m以上とゆとりのある設計となっている。
Q3 室外環境(敷地内)	植栽を設けて良好な景観を形成している。我が国の生態系に悪影響を及ぼす外来種を使用していない。また周囲のまちなみと調和した色合いとなっている。
LR1 エネルギー	断熱等性能等級における等級4相当である。
LR2 資源・マテリアル	構造はLGS+PBとなっており分別が容易である。
LR3 敷地外環境	十分な数の駐車場と駐輪場を設置している。夏季の建築物に対する見付面積を小さくするように努めている。
その他	特になし